



## 2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月14日

上場会社名 株式会社ペルセウスプロテオミクス 上場取引所 東  
コード番号 4882 URL <https://www.ppmx.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 横川 拓哉  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 鈴木 信一 (TEL) 03(6264)8268  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第1四半期の業績 (2025年4月1日～2025年6月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	23	12.5	△218	—	△171	—	△176	—
2025年3月期第1四半期	20	△15.8	△221	—	△214	—	△219	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△11.94	—
2025年3月期第1四半期	△17.05	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	1,654	1,256	71.1
2025年3月期	1,818	1,432	74.4

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 1,177百万円 2025年3月期 1,353百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

2026年3月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な予測が困難であるため、記載しておりません。詳細につきましては、添付資料3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	14,749,500株	2025年3月期	14,749,500株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	50株	2025年3月期	50株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	14,749,450株	2025年3月期1Q	12,855,146株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	6
(セグメント情報等の注記) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間における世界経済は、各国の金融引締めや中国経済の先行き懸念、ウクライナ情勢や中東情勢等から、不透明な状況が継続しました。国内経済は、足踏みも見られたものの緩やかな回復基調となりましたが、米国の通商政策の影響に加えて物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響なども国内景気を下押しするリスクとなっております。また、金融資本市場の変動等の影響に一層の注意が必要な状況が続いております。

当社が属する医薬品業界におきましては、がんや認知症等、世界的に患者数が増えている疾患の治療法の確立が、継続的な重要課題となっております。当社におきましては、創薬領域を中心に、積極的な事業展開を図りました。各領域における成果は次のとおりです。

#### ① 創薬

当社の効率的な抗体取得プラットフォームを活用し、主にごん領域で抗体開発を進めております。カドヘリン3 (CDH3) を標的とするPPMX-T002及びPPMX-T004、トランスフェリン受容体1 (TfR1) を標的とするPPMX-T003という3つの抗体の開発を進めているほか、これらに続く候補抗体の評価・検討を進めております。

次世代の創薬につきましては、効率的な抗体取得技術の整備を進めており、前事業年度に作製に成功したPPMX抗体ライブラリ2を用いて当社のデータベースを整備し、当社が独自に開発を進めているAI創薬により、取得が難しい高難度抗原に対する抗体取得を進めております。

当社のパイプラインの開発状況は次のとおりです。

##### a. PPMX-T002

PPMX-T002は、がん細胞で多数発現しているCDH3を標的とする抗体に、イットリウム90 (<sup>90</sup>Y) という放射性同位体 (RI) を標識した抗がん剤候補です。がん細胞上の標的に抗体が集積し、<sup>90</sup>Yが放射線を照射してがん細胞を殺傷する仕組みです。導出先の富士フイルム株式会社 (以下「富士フイルム社」) の事業方針の変更により、2022年3月に実施権が返還され、新たな医薬品候補として開発を進めております。富士フイルム社の子会社が米国で行った第I相試験においては、本抗体が標的のがん細胞へ集積することが確認されております。当社は、抗腫瘍効果をさらに高める目的でRIを<sup>90</sup>Yからアクチニウム225 (<sup>225</sup>Ac) へ変更し、動物実験で効果を検証しました。これをもとに放射性医薬品開発会社を中心に早期の導出に向けて活動を継続しております。

##### b. PPMX-T003

PPMX-T003は、当社のファージライブラリの中から、ICOS法という独自のスクリーニング技術を活用して取得したユニークな完全ヒト抗体です。標的は、細胞内への鉄の取り込みに関与し、増殖が盛んながん細胞に極めて多く発現するTfR1です。本抗体がTfR1に結合すると、がん細胞への鉄の取り込みが阻害され、それによってがん細胞は増殖が抑制され抗腫瘍効果が得られます。PPMX-T003は、その増殖抑制効果から様々ながんに対する治療効果が期待できると考えられ、鋭意研究開発を進めております。

TfR1は、がん細胞のほかに、赤芽球細胞 (赤血球になる前の細胞) にも極めて多く発現しています。このため、まずは赤血球が異常に増える疾患である真性多血症 (PV) を対象疾患と定めて第I相試験を国内で実施し、2024年6月に終了しました。

なお、この第I相試験の結果につきましては、2024年12月に行われた第66回米国血液学会 (ASH) 年次総会で、被験者都合により中止となった1例を除く5例において12週間の瀉血不要期間が達成されたことや、全6例においてヘマトクリット、ヘモグロビン等の赤血球パラメータで薬効が示唆されたことを報告しました。

本抗体はまた、アグレッシブNK細胞白血病 (ANKL) という超希少疾患に対する有効な治療薬となる可能性も見出されており、2022年3月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の令和4年度「創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業」 (以下「本事業」) に採択され、3カ年の支援を受けてきました。本事業を受けて開始された医師主導第I/II相試験 (以下「本治験」) は、前事業年度内に終了する計画でしたが、超希少疾患のため予定通りに被験者登録が進まず、治験調整医師の判断により、治験期間が1年延長されました。

なお、本治験は2025年2月に再び令和7年度「創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業」に採択されております。今後の被験者登録を加速するため、治験実施施設を7か所から9か所に増やしております。

このほか、急性骨髄性白血病、悪性リンパ腫等の血液がん及び固形がんに対する治療薬としての作用機序を明確化するため、名古屋大学等と共同で創薬研究を推進しております。

当社は、PPMX-T003の価値最大化に向けて研究開発を進めると共に、早期の導出に向けて活動を継続しております。

##### c. PPMX-T004

PPMX-T004は、CDH3を標的とする抗体に薬物を結合した抗体薬物複合体 (ADC) です。ADCは、抗体ががん細胞に特異的に結合し、薬物をがん細胞内に直接取り込ませることで、従来の化学療法よりも副作用を抑えつつ、高い治療効果が期待できるとされています。

当社はPPMX-T004の抗体に結合させる最新の薬物及びリンカー等の最適な組み合わせを見出し、マウスによる実験でも高い抗腫瘍効果を認めました。これを受けて、現在は予備毒性試験を進めております。薬効と毒性のバランスの最適化は2026年3月期以降となる見込みです。

また、前事業年度にADCに関する共同研究契約を締結したUBE株式会社とは、PPMX-T004のみならず、様々ながん抗原に対するADCの探索研究を進めております。

## ② 抗体研究支援

抗体研究支援の売上高は3,050千円（前年同期比228.0%増）となりました。なお、新たな抗体研究支援サービスとして、ラクダ由来のVHH抗体ライブラリを用いた抗体スクリーニング・作製サービスの提供を、2025年5月に開始しております。

## ③ 抗体・試薬販売

抗体・試薬販売の売上高は20,422千円（前年同期比2.5%増）となりました。2025年4月に、ADC研究開発用抗体として抗Exatecan抗体及び疾患研究用抗体として抗GPR87抗体を発売しております。また、湧永製薬株式会社と共同で開発しているPTX3迅速計測キットについては、2024年12月末時点で、心血管疾患の一種（非公開）を対象とした体外診断用医薬品としての臨床性能試験が完了し、現在製造販売承認へ向けた準備を進めております。PTX3は、血管炎だけでなく、種々の炎症によっても血中濃度が上がることが知られており、今後多様な炎症性疾患の予後を予測する体外診断用医薬品としての研究開発を進めてまいります。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は23,472千円（前年同期比12.5%増）となりました。販売費及び一般管理費は239,965千円（前年同期比0.8%減）となり、営業損失は218,296千円（前年同期は営業損失221,799千円）となりました。経常損失は、為替差損等6,361千円を営業外費用として計上した一方、助成金収入等による営業外収益53,171千円を計上した結果、171,487千円（前年同期は経常損失214,672千円）となりました。また、当社が保有する固定資産につきまして「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失として4,104千円を特別損失に計上したこと等により、四半期純損失は176,073千円（前年同期は四半期純損失219,167千円）となりました。

なお、当社は医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ163,956千円減少し、1,654,880千円となりました。主に、研究開発費等の支払い等により現金及び預金が162,882千円減少したことによるものであります。

### (負債)

当第1四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ12,116千円増加し、398,547千円となりました。主に、AMEDの「創薬支援推進事業・希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業」への採択により交付された助成金である長期預り金が25,000千円増加した一方、流動負債が12,883千円減少したことによるものであります。

### (純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ176,073千円減少し、1,256,333千円となりました。これは、四半期純損失176,073千円の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

PPMX-T002及びPPMX-T003の早期導出に向けて活動を継続いたしますが、当該導出による契約一時金等の金額が確定しておりません。2026年3月期の業績予想につきましては、現時点で当該導出が2026年3月期の売上高・事業費用に及ぼす影響についての合理的な予測が困難であるため、記載しておりません。業績見通しが判明した場合には、速やかにお知らせします。

一方、費用面につきましては、販売費及び一般管理費984百万円を見込んでおります。このうち研究開発費としてPPMX-T003のANKLを対象とした医師主導治験等により660百万円を、その他の管理費として323百万円を、それぞれ見込んでおります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,667,921	1,505,038
売掛金	22,214	15,443
製品	1,539	1,998
貯蔵品	3,774	3,771
前渡金	3,104	7,152
前払費用	11,474	14,629
未収消費税等	50,299	10,598
その他	15,646	53,385
流動資産合計	1,775,974	1,612,018
固定資産		
有形固定資産	0	0
無形固定資産	0	0
投資その他の資産	42,862	42,862
固定資産合計	42,862	42,862
資産合計	1,818,837	1,654,880
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	61,012	71,659
未払費用	41,607	30,370
未払法人税等	18,273	2,237
預り金	3,973	3,825
賞与引当金	—	3,890
流動負債合計	124,866	111,983
固定負債		
長期預り金	261,564	286,564
固定負債合計	261,564	286,564
負債合計	386,431	398,547
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,437,908	2,437,908
資本剰余金	2,723,798	2,723,798
利益剰余金	△3,808,501	△3,984,574
自己株式	△21	△21
株主資本合計	1,353,183	1,177,110
新株予約権	79,223	79,223
純資産合計	1,432,406	1,256,333
負債純資産合計	1,818,837	1,654,880

## (2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	20,862	23,472
売上原価	654	1,804
売上総利益	20,208	21,668
販売費及び一般管理費		
研究開発費	154,388	164,721
その他	87,618	75,243
販売費及び一般管理費合計	242,007	239,965
営業損失(△)	△221,799	△218,296
営業外収益		
受取利息	57	744
助成金収入	—	52,426
為替差益	10,017	—
その他	1	0
営業外収益合計	10,076	53,171
営業外費用		
株式交付費	432	30
租税公課	2,517	—
為替差損	—	6,331
営業外費用合計	2,949	6,361
経常損失(△)	△214,672	△171,487
特別損失		
減損損失	3,880	4,104
特別損失合計	3,880	4,104
税引前四半期純損失(△)	△218,552	△175,591
法人税、住民税及び事業税	615	481
法人税等合計	615	481
四半期純損失(△)	△219,167	△176,073

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	225千円	273千円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

当社の事業セグメントは、医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

## II 当第1四半期累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

当社の事業セグメントは、医薬品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。